

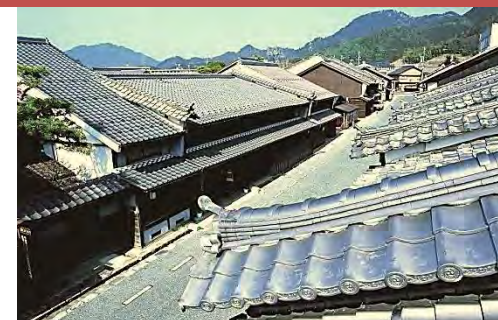
美濃市美濃町(岐阜県)

(1) 保存地区の概要

地区名	美濃市美濃町
種別	商家町
面積	約9.3ヘクタール
選定年月日	平成11年5月13日

特徴 美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区は、戦国武金森長近により築城と共に新しい城下町として造られたまちである。街路は四間道である一番町通りと二番町通りと、横道で構成され、目の字型の町割となっている。この通りに沿って、奥行き長い短冊状の敷地に切妻造平入の主人に、防火壁としての「うだつ」家屋が多く造られている。高台に造られた城下町であったため水に乏しく、今も城下には「番水」と云われる防火用水網が巡らされ、まちを火災から守る工夫が随所にみられる。近世から昭和にかけて美濃和紙の商いで繁栄した商家町として、良好な歴史的風致が残されている。

選定による効果 平成11年以降本格的な町並み保存事業を実施し、平成15年には保存地区内の電線等地中化が完成した。歴史的景観を復活するとともに地区内では、「美濃和紙あかりアート展」や「ツアー・オ・ジャパン美濃ステージ」の開催など「うだつの上る町並み」のにぎわい創出を官民一体となって実施してきた。2014年には最上級の美濃和紙である「本美濃紙」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことにより、まちの賑わいが取り戻されている。また市は歴史的遺産を保存するとともに、観光振興に活用を図るため、文化財保存活用地域計画の策定を行なっている。



うだつの上る町並み

(2) 保存地区のあゆみ

- 昭和63年度(1988) 「町並み審議会」の設置
- 平成元年度(1989) 伝統的建造物群保存対策調査を実施(～平成2年)
- 平成2年度(1990) 旧今井家住宅美濃史料館オープン
- 平成8年度(1996) 伝統的建造物群保存地区保存条例の制定公布
- 平成11年度(1999) 美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区の都市計画決定(1月)
『重要伝統的建造物群保存地区』選定(5月)
修理修景事業開始
- 平成16年度(2004) 「美しい町並み大賞」受賞
- 平成18年度(2006) 美しい日本の歴史的風土100選
- 平成19年度(2007) ティファニー財団伝統文化大賞受賞
- 平成21年度(2009) ミシュラン グリーンガイド掲載
- 平成22年度(2010) 第30回豊かな海づくり大会で天皇・皇后両陛下「うだつの上る町並み」ご視察
- 平成23年度(2011) 歴史的風致維持向上計画認定
- 平成26年度(2014) 本美濃紙が「和紙:日本の手漉き和紙技術」としてユネスコ無形文化遺産に登録

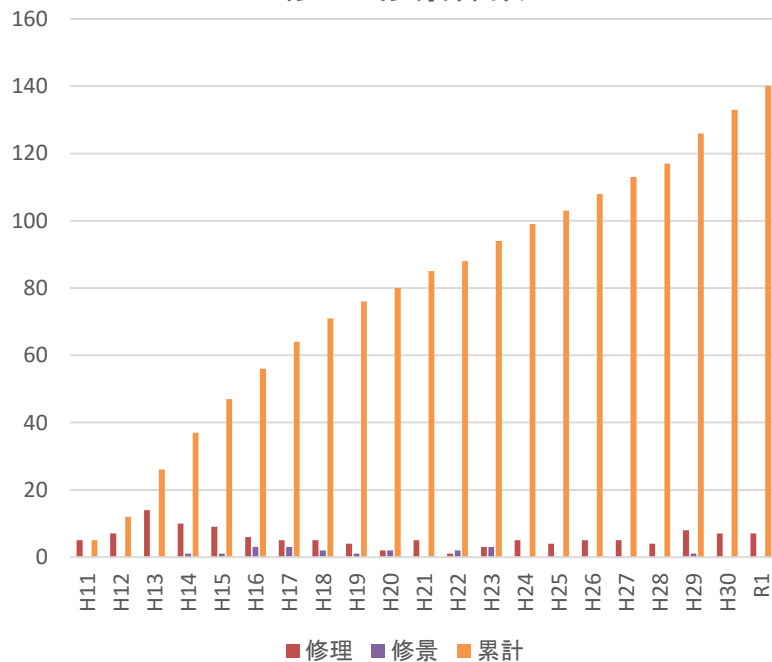
美濃市美濃町(岐阜県)

(3) 保存地区の保存と整備

平成11年から伝統的建造物の修理・修景は140件(R1時点)の修理を実施した。

平成28年	修理事業	4件	
平成29年	修理事業	8件	修景事業1件
平成30年	修理事業	7件	
令和元年	修理事業	7件	

修理・修景件数



修理前



修理後



美濃市美濃町(岐阜県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 伝統的建造物の活用とまちづくり

江戸時代や明治時代に創業した酒造業や美濃和紙問屋などの老舗と共に、近年の観光客の増加とともに、伝統的建造物を新たな店舗に改装し飲食店などに改装する例が増加している。伝統的建造物の魅力が若い世代へと受け継がれ、新たなサービスの創造やイノベーションが起こり、歴史的町並みの再生が進行している。

また現在、市が所有する旧美濃和紙原料蔵や数奇屋造りの建物を宿泊施設や和紙販売施設として改装が行われ、令和元年7月に開業した。



美濃和紙の原料蔵として使われた
旧松久邸別邸(上・下)



老舗:和菓子店



老舗:明治から営まれる和紙問屋



スタンドカフェ



老舗:和菓子店



老舗:江戸時代から営まれる造り酒屋



ケーキ&カフェ



カフェ



イタリアレストラン



NPO法人多目的ギャラリー



美濃和紙あかりショップ



カフェ

美濃市美濃町(岐阜県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その2 周囲への波及効果

伝統的建造物群保存地区内で、新たな店舗が増加すると共に保存地区から延びる旧牧谷街道沿いの歴史的建造物を活用して、民間による宿泊施設が開業した。この街道は江戸時代初期に造られた川湊へ通じる主要街道として、多くの歴史的建造物が建ち並ぶ地域で歴史的風致維持向上計画における重点区域に指定されており、将来的に無電柱化が検討されている地域である。また、同地区に所在する歴史的風致形成建造物である旧須田万右衛門邸も宿泊施設として改修が行われた。



旧須田万右衛門邸

保存地区から離れた樋ヶ洞地区や蕨生地区においても、歴史的建造物をカフェやゲストハウスに活用した建物が民間により開業しており、地区外にも歴史的建造物を活用したまちづくりが波及している。



江戸時代の建物を改装した宿泊施設



昭和初期の建物を改装したカフェ&ゲストハウス(樋ヶ洞)



旧牧谷街道の重点地区

(5) 住民等の取組

●美濃和紙あかりアート展

うだつの上がる町並みが重伝建地区に選定される以前の、平成6年から開催されている美濃和紙あかりアート展は、毎年10月の第2土・日曜日の2日間開催されているが、このイベントは中高生、ライオンズクラブ、JC、商工会議所など地域の各団体から延べ400人へのぼるボランティアにより支えられている。うだつの上がる町並みに賑わいを取戻そう、活性化しようと地域住民の発案で始められた。美濃市を代表するこのイベントは、地域住民に支えられ、多くの人々を魅了している。



美濃和紙あかりアート展

●町並み案内ボランティア会長

うだつの上がる町並みを観光客に説明していく中で、最も意識していることは歴史的町並みを保存することだけではなく、各町内で営まれる伝統行事や風習を受け継いでいく住民の意識を伝えることである。美濃まつりや美濃流しにわか、夏に行われる秋葉様の祭礼などが一体となって守り、次の世代に伝えようとする住民意識があるからこそ、この町並みが維持されることを、多くの方々に説明している。



国際研修「紙の保存と修復」東京文化財研究所・ICCROMIにおける町並み案内ボランティア